

# 令和4年度 事業報告

自 令和4年4月 1日

至 令和5年3月31日

伊豆の国市シルバー人材センターは、平成2年の設立以来32年間にわたり、地域の高齢者に就業機会の確保・提供をし、働くことを通じて喜びや生きがいの充実と社会参加の推進を図ることによって、活力ある地域社会づくりに寄与することを目的に事業を推進してきました。

今、我が国の65歳以上の高齢者人口が3,600万人を超え、本格的な高齢社会を迎えている中で、国の65歳までの定年延長や継続雇用制度の義務化により、ここ数年、当センターでも60歳代の入会者が減ったことによる新規入会者の減少による人手不足や、平均年齢の上昇により会員の高齢化が進んでいます。また、長期化する新型コロナウイルス感染拡大は、雇用や経済をはじめ、社会生活に大きな打撃を与え、当センター事業への影響も出ています。

このような状況の中で、シルバー人材センターの基本理念である「自主・自立、共働・共助」の精神に基づいて、伊豆の国市のご支援や各種団体及び発注者のご協力をいただきながら、財政の健全化と事業運営の効率化を進めるとともに、会員の拡大、就業機会の確保、適正就業の推進に努め、地域社会に貢献することを主たる目的に、事業計画に沿って各事業に取り組んできました。

その結果、令和4年度の事業実績は、請負・委任が契約件数1,505件（前年度対比1.7%増）、契約金額217,022,208円（前年度対比4.3%増）、就業延人員40,845人日（前年度対比0.8%増）。派遣事業が契約件数36件（前年度対比33.3%増）、契約金額72,389,460円（前年度対比16.2%増）、就業延人員10,386人日（前年度対比21.1%増）という結果となりました。

以下、主な事業の実施状況について報告します。

## 1 就業会員の増強、就業機会の開拓・拡大と就業率の向上

- (1) 会員の口コミ、市広報・カレンダー（10月、11月）、会報（8月、新年号）、ホームページ、マスメディア（6月、1月）等を活用し会員増強を図りました。
- (2) グループ就業やローテーション就業により、ワークシェアリングを推進しました。
- (3) 毎月求人情報を提供し、就業機会の拡大を図りました。

## 2 普及啓発事業を推進

- (1) 会員相互の連携を深め、シルバー人材センターの普及啓発のため10月に計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大により中止といたしました。
- (2) 県下一斉普及啓発 Day への参加により、市社協主催の福祉イベントで当センターのPR及び会員の加入促進を図りました。
- (3) 市民及び会員を対象に、広域連携により8職種の参加型講習会を開催し、シルバー人材センター事業の理解を深めました。
- (4) 交通安全早朝一斉街頭広報(年4回)に参加しました。
- (5) 会報「シルバー伊豆の国市」の発行及び市カレンダー、ホームページ、配分金通知を活用し、会員及び市民への情報提供に努めました。

## 3 会員の技術習得機会の提供及び就業意識の向上

伊豆市シルバー人材センターとの共同開催により、会員の技能習得を目的に「植木の剪定」「刈払機」「駐車場スタッフ」「いきいきメイク術」「アドバイザーに求められる対話力」「スマホの安心・安全活用(入門編)」の各講習会を計8日開催し、当市から58名が受講しました。

## 4 安全・適正就業の推進

- (1) 年3回の大仁清掃センターでの安全運転注意喚起及び7月に運転適年齢診断研修、1月にK(危険)Y(予測)T(トレーニング)研修を開催し、車両事故発生抑制を図りました。
- (2) 就業前の「KYチェックシート」を活用し、安全意識の高揚を図りました。
- (3) 安全・適正就業推進委員会の抜打ち安全パトロールを年2回実施し、会員の事故防止に向けた取組を行いました。
- (4) 会員に対し、市の健康診断受診を推進しました。

## 5 福祉・家事援助サービスを推進

人手不足分野である「子育てサポーター養成講座」を伊豆の国市との共同開催により、女性会員の加入促進を図りました。

## 6 財政基盤の強化と事務局機能の効率化

- (1) 就業機会の開拓・拡大を行い、受託収益の増加に努めました。
- (2) 一ヶ月変形労働職員会議を開催し、歳出抑制や事務の効率化に向けた協議を行い、経常経費等の削減に努めました。